

会 報

No.77 (2004年2月)

目 次

日本分子生物学会 第13期第2回評議員会報告	1
日本分子生物学会 第26回総会報告	2
日本分子生物学会 2004年度会計収支予算	3
日本分子生物学会三菱化学奨励賞創設	4
男女共同参画学協会連絡主催「科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」 アンケート解析進行状況	4
第26回日本分子生物学会 年会報告	5
第2回日本分子生物学会 男女共同参画シンポジウム 「キャリア形成とライフサイクル」の報告	6
第4回春季シンポジウム「分子生物学の新展開」のご案内	8
第27回(2004年)日本分子生物学会年会のお知らせ(その1)	10
学術賞、研究助成の本学会推薦について	13
研究助成一覧	14
各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ	16
○ 第29回国際動物遺伝学会議 (ISAG).....	16

日 本 分 子 生 物 学 会
(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

URL : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/>

日本分子生物学会 第13期第2回評議員会 報告

日 時：2003年12月9日(火) 15:30 ~ 18:50

場 所：神戸ポートピアホテル本館「菊水」

出席者：山本正幸(会長)、相沢慎一、荒木弘之、伊藤文昭、岡田清孝、小川英行、工藤 純、
桑野信彦、近藤寿人、品川日出夫、清水信義、清水淑子、杉野明雄、月田承一郎、
辻本賀英、中西重忠、西田栄介、広瀬富美子、升方久夫、御子柴克彦、養島伸生、
多羽田哲也(庶務幹事)、杉本亜砂子(会計幹事)、花岡文雄(編集幹事)、
上村 匡(編集幹事)、飯野雄一(広報幹事)、諸橋憲一郎(集会幹事)、松本智裕(集会幹事)、
勝木元也(第26回年会長)、佐方功幸(第28回年会長)、
安田國雄(第4回春季シンポジウム世話人)、大坪久子(男女共同参画委員)、
小川智子(学術会議会員)、富澤純一(国際誌編集長)、
磯野克己(第26回年会特別委員)、本庶 佑(2006IUBMB)

欠席者：大石道夫、榊 佳之、篠崎一雄、谷口維紹、長田重一、鍋島陽一、町田泰則、
柳田充弘(第27回年会長兼)

議 事：

1. 第12期、第13期合同評議員会の議事録を確認した。
2. 報告事項
 - 1) 庶務幹事より平成16年度科学研究費補助金の審査員候補者を推薦したことが報告された。
 - 2) 選考委員長より選考助成候補の推薦の状況について報告がなされた。
 - 3) 賞推薦委員長より、推薦の状況について報告がなされた。本年から本学会に日本分子生物学会三菱化学奨励賞が新設され、第一回の受賞者に後藤由季子東京大学分子細胞生物学研究所助教授と白髭克彦理化学研究所ゲノム総合研究センター上級研究員が選ばれた。
 - 4) 会計幹事より2002年度日本分子生物学会収支決算の報告が行われた。既に会計監査により適正に予算の執行が行われたことが確認された。続いて、2003年度会計の中間報告がなされ、今年度より三菱化学から日本分子生物学会三菱化学奨励賞のための経費130万円が寄付されることが報告された。
 - 5) 勝木元也第26回年会長から第26回年会について、参加者の増加に伴い神戸国際会議場付近の全ての施設を使う必要があったこと、一般からの口頭発表のセッションを設けたことが説明された。また、Webによる年会講演要旨受付の労をとられた磯野克己委員より、順調に受付が行われたが、今回は締め切り後の変更が許可されたケースがあったことが報告された。
 - 6) 松本智裕第27回年会長代理(柳田充弘年会長)から第27回年会を、2004年12月8日~11日の期間、神戸国際展示場ならびに神戸国際会議場を主会場として開催予定であることが報告された。
 - 7) 佐方功幸第28回年会長から第28回年会を、2005年12月7日~10日の期間、福岡ドームならびにシーホークホテル&リゾートを主会場として開催予定であることが報告された。
 - 8) 安田國雄第5回春季シンポジウム世話人より、第5回春季シンポジウムは2004年5月19日、20日の期間、奈良県新公会堂(奈良市)で開催予定であることが報告された。
 - 9) 飯野雄一広報幹事より、ホームページの運営について報告があった。
 - 10) 花岡文雄編集幹事より、Genes to Cells が on line で閲覧できるようになり、冊子体の購読者が減少した旨報告があった。
 - 11) 富澤純一国際誌編集長より Genes to Cells の投稿に関して、60%が on line 投稿であること、多くの on line 投稿論文が投稿規定に従っておらず、編集に負担となっていることが報告された。
 - 12) 小川智子学術会議会員より、日本学術会議における活動について報告があった。
 - 13) 大坪久子男女共同参画委員より、男女共同参画学協会連絡会主催の、「科学技術系専門職の男女

共同参画実態調査」への多くの本学会員の協力に感謝が述べられ、アンケートの結果は現在集計、解析中である旨報告された。

3. 協議事項

- 1) 2004年度収支予算案が示され了承された。
- 2) 第6回春季シンポジウムの開催地について諮られ、執行部で協議して決めることとなった。
- 3) 西田栄介将来計画委員長より、第20回国際生化学分子生物学会議(2006年6月18~23日、京都国際会議場)を本学会の2006年度年会と位置づける案が示され、承認された。中西重忠評議員に年会長をお願いする事が諮られ、承認された。これに関連して本席 佐 第20回国際生化学分子生物学会議会長より同学会は、学生が多数参加できるよう、参加費を抑え、ポスター発表会場を確保できるよう計画されている旨説明があった。

また、これに伴い、2006年の春季シンポジウムは開催せず、冬期に規模を大きくしたシンポジウムを開くことが諮られ承認された。

日本分子生物学会 第26回総会報告

日 時：2003年12月11日(木) 19:30 ~ 20:30

場 所：神戸国際会議場メインホール(1階：C会場)

議事内容：

1. 開会の挨拶の後、総会議長として黒岩 厚氏と森 郁恵氏を選出した。
2. 議長より委任状を含めて400名以上の総会参加があり、総会が成立していることが発表された。
3. 山本会長より2003年度の学会活動の概要および評議員会の報告と今後の方針について説明がされた。
4. 花岡編集幹事より Genes to Cells の編集・発行とも順調である旨報告された。
5. 多羽田庶務幹事より会員数、男女共同参画における活動などの報告があった。
6. 飯野広報幹事よりホームページの運営状況について報告があった。
7. 安田世話人より第4回春季シンポジウムについて説明があった。
8. 杉本会計幹事(多羽田代理)より2002年度会計収支決算書が提出、説明され異議なく承認された。
9. 杉本会計幹事(多羽田代理)より2004年度事業計画および収支予算案が提案、説明され異議なく了承された。
10. 勝木第26回年会長の挨拶があり、年会は順調に運営されている旨の説明があった。
11. 柳田第27回年会長(松本代理)から第27回年会を、2004年12月8日~11日の期間、神戸国際展示場ならびに神戸国際会議場を主会場として開催予定であることが報告された。
12. 佐方第28回年会長(多羽田代理)から第28回年会を、2005年12月7日~10日の期間、福岡ドームならびにシーホークホテル&リゾートを主会場として開催予定であることが報告された。
13. 議長より閉会の挨拶があり、総会が終了した。

日本分子生物学会 2004年度会計収支予算

2004年度日本分子生物学会収支予算

(2004年4月1日 ~ 2005年3月31日)

収入の部

単位：円

科 目	2003年度予算額	2004年度予算案	備 考
学 会 費	49,430,000	52,940,000	正会員会費： 37,260,000円 (9,200名 x 4,500円 x 0.9)
賛 助 会 費	1,350,000	1,440,000	学生会員会費： 14,580,000円 (5,400名 x 3,000円 x 0.9)
広 告 収 入	0	2,000,000	海外会員会費(200名)： 800,000円
預 金 利 子	100,000	30,000	入会金(300名)： 300,000円
国 際 誌 購 読 謝 礼 金	1,300,000	1,900,000	ブラックウェル社より
寄 付 金 収 入	0	1,300,000	三菱化学より、奨励賞副賞および選考経費として
雑 収 入	50,000	50,000	
収 入 小 計	52,230,000	59,660,000	
前年度繰越金	※ 29,070,000	27,100,000	※2002年度決算・繰越金概算とした
合 計	81,300,000	86,760,000	

支出の部

科 目	2003年度予算額	2004年度予算案	備 考
事 業 費	25,500,000	27,050,000	
会報発行	3,200,000	3,200,000	第28回年会補助： 300万円 プログラム・第27回年会分： 200万円
年会補助金	5,000,000	5,000,000	
春季シンポジウム補助金	7,000,000	7,000,000	編集経費330万円、編集部謝金200万円、他60万円 ブラックウェル社支払い(フリーアクセス料100万円含む) 国内購読取りまとめ費用等
国際誌発行支援金	5,300,000	5,900,000	
〃 オンラインアクセス費用	3,500,000	4,400,000	
国際誌購読関係費	700,000	750,000	
ホームページ関係費	300,000	300,000	
事業費予備費	500,000	500,000	
評 議 委 員 会 費	1,000,000	7,500,000	
委員会費	1,000,000	1,000,000	
選挙・名簿作成費	0	6,500,000	
業 務 委 託 費	13,000,000	14,000,000	会員増に伴う発送手数料増
一 般 事 務 費	12,700,000	14,280,000	
印刷費	300,000	350,000	
通信費	11,400,000	12,900,000	会報・年会プログラム・会員名簿他送料
庶務事務費	650,000	680,000	庶務幹事50万円 広報幹事18万円
雑 費	350,000	350,000	
三菱化学奨励賞 関係費	0	1,300,000	奨励賞副賞および選考経費として
予 備 費	2,000,000	2,000,000	
支 出 小 計	54,200,000	66,130,000	
次年度繰越金	27,100,000	20,630,000	
合 計	81,300,000	86,760,000	

※ 上記の収支繰越金以外に、将来事業準備金 4,000,000円(定期預金)があります。

日本分子生物学会三菱化学奨励賞創設

日本分子生物学会は、三菱化学株式会社のご厚意に基づいて「日本分子生物学会三菱化学奨励賞」を創設しました。この賞は、分子生物学の進歩に寄与する成果を発表した研究者に対して授与し、その功績をたたえとともに、今後の分子生物学の発展に役立てることを目的としたもので、5月に日本分子生物学会と三菱化学株式会社との間で契約が交わされました。平成19年度までの5年間継続することが合意され、その後の継続については改めて折衝することになっています。

6月に本賞の応募要項を発表し、9月末までに合計17件の他薦の応募がありました。賞推薦委員会において審査し、2名の受賞者を選び、年会期間中の12月11日に総会に先立って授賞式がおこなわれました。受賞者には、副賞として賞金50万円が授与されました。今年度の受賞者と研究題目は以下の通りです。

後藤由季子（東京大学分子細胞生物学研究所 助教授）

「細胞死と細胞分化を制御するシグナル伝達」

白髭克彦（理化学研究所ゲノム科学総合研究センター 上級研究員）

「真核生物染色体の複製開始制御機構の解析」

平成16年度も今年度とほぼ同様に推薦を募集して受賞者を決定する予定です。

賞推薦委員会委員長 岡田清孝

男女共同参画学協会連絡主催

「科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」アンケート解析進行状況

昨年度の、男女共同参画学協会連絡主催の、「科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」にご協力頂きありがとうございます。アンケートの結果は現在集計、解析中です。本学会からは全会員数の約20%にあたる2,878名の方が回答して下さいました。この回答数は、40あまりの学会、団体から寄せられた全体の回答数（19,291）の15%を占め、また生物学系の学会の中では最も多い数です。このように多くの回答数が得られたことは、解析結果が全体の意見をより正確に反映することにつながります。皆様のご協力と事務業務を引き受けた下さった（財）日本学会事務センターに、重ねてお礼申し上げます。

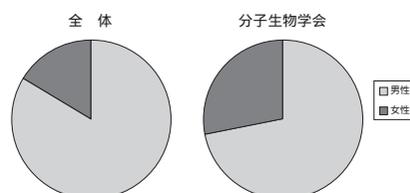
本学会の回答者の傾向を全体の回答者と比較してみますと、女性会員の回答率が高い（グラフ1）また、大学関係者の回答が高いことが特徴です（グラフ2）。また比較的若い年代の会員の回答数が多く見られました（グラフ3）。これからアンケートの解析を進め、皆様に随時ご報告できましたらと考えております。

大坪久子（東京大学）

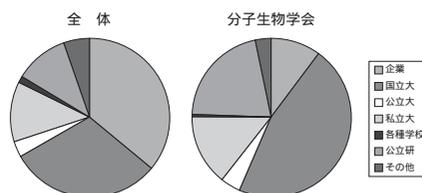
木村洋子（都臨床研）

三宅早苗（東邦大学）

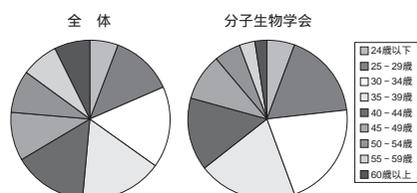
グラフ1 回答者の男女比



グラフ2 回答者の所属



グラフ3 回答者の年齢



第 26 回日本分子生物学会 年会報告

第 26 回日本分子生物学会年会は、平成 15 年（昨年）12 月 10 日（水）～ 13 日（土）の 4 日間、神戸国際会議場を中心とする神戸ポートピアエリアを会場に開かれました。また 12 月 14 日（日）には名古屋テレビアホールで一般公開講演会が行なわれました。

年会の有料登録者は、8,715 名で、海外からの招待者や、特別企画の「バイオリソース展示」の参加者を加えると 9,000 名弱の例年通りの大きな年会になりました。この数は、9,000 名を越えた前回は約 350 名下回るもので、初めて参加者が減少した年会でした。それでもポスター数は前回は越えました。

ポスターでの発表が同一の研究室から数十が出されている傾向が近年目立っています。ポスターを含む発表者数が 4,000 を越えると、我が国の施設では収容の限界となり、今後の運営の課題の一つになるものと思います。これまで発表の場を与えるために無審査で受け入れていることを考えると今後は審査などの導入も考えなくてはならないのではと感じられました。これは分子生物学会が大きくなった結果、物理的制約が生じたことを意味しています。

年会では今回は久しぶりに一般講演を口頭発表にしました。またシンポジウムでは提案者に自由裁量権を与え、時間の制約のなかで活発な討論を期待しました。これらは比較的うまく進行しましたが、入りきれない聴衆が多くのお場で出たことは、会場の都合とはいえ聴衆者数の見通しの難しさを感じました。

また会場が集中しているとはいえかなり広い範囲になりましたので、一部のポスター展示会場が雨の中の移動になって申し訳なかったと思います。これも現状では精一杯の会場を使ってやっと広さを確保できたことをご理解頂くしかありません。

一方、特別企画は例年の外国からの招待者を止めて、我が国でそれぞれの分野を切り開いてきた方々 7 名にお願いして「30～40 代で発想し、育て、実現」してこられた研究の軌跡をお話頂くレクチャーシリーズを行いました。シンポジウムの時間帯より遅く始まり、時間帯が重なったことから大きな会場が満員になるとの予想を裏切って約 5～600 名の聴衆にとどまったことは残念でしたが、聴衆からは大変良い企画であるとの評価を頂きました。

海外からの特別講演を取って今回外したのは、ここ数年、様々な分野で多くの国際シンポジウムが行われ、海外から多数の学者が頻りに訪れており、むしろ必要ならシンポジウムで招待して頂く方針を採ったためです。この方針には賛否両論があったことは確かですが、特別講演に変わるレクチャーシリーズは、今までにない個性豊かな講演になったのではないかと自己評価しています。

その他「リサーチリソースなくしてリサーチなし」を標語に、我が国の支援としては初めての大型資金である文部科学省「ナショナルバイオリソースプログラム（NBRP）」の関連研究者が、それぞれのモデル生物のバンクの実施や、それを使ってこそ初めて出来るユニークな成果を 4 日間連続で展示しました。反響はきわめて確かなもので「リソースの質がリサーチの質を決める」ことが実感されました。

また、三菱化学株式会社からの申し出により「日本分子生物学会三菱化学奨励賞」を設定することが評議員会で決まりました。二名の会員が名誉ある第一回の受賞者に選ばれ、その授賞式と受賞講演が行われました。

その他、男女共同参画に関する討論や新たな組み換え DNA 実験指針に関する説明など、分子生物学会の講演とは別の意味での学会員の活動も盛んでした。これらの企画に参加して下さった方々にお礼を申し上げます。

運営に関しては、協賛して下さった企業が 200 社を超え、経済面で大変大きな恩恵を蒙りましたし、バイオテクノロジーセミナーやブースの充実は、分子生物学会の名物になりつつあります。このように本年会の成功を支えて下さった、バイオテクノロジーセミナー、機器・試薬・書籍展示にご参加下さいました多数の関連企業の皆さまに心よりお礼を申し上げます。

最後になりましたが年会運営にご協力下さった皆様のご尽力にあらためて厚くお礼申し上げます。

第 26 回日本分子生物学会 年会長 勝木 元也

第2回 日本分子生物学会：男女共同参画シンポジウム 「キャリア形成とライフサイクル」の報告

オーガナイザー：伊藤 啓・大坪久子（日本分子生物学会・男女共同参画ワーキンググループ）

日時：2003年12月12日（金）18:15～20:15

場所：神戸国際会議場 4階 401+402号室（E会場）

●今回の主なテーマは以下の2点であった。

1. キャリア形成とライフサイクルは、どうしてもコンフリクトするのか？
2. 研究者の育児休暇制度を有効に定着させるためには、何が必要か？！

大学院生やポスドクの時期に出産を経験し、別居同居を重ねつつ育児を続けながら、さまざまな分野で活躍している研究者に、自己の経験をもとにしたノウハウと大きな障害になった問題点を話していただいた。男女を問わず、後輩のポスドクや院生がカブけられること、教授、助教授クラスも含めて、そのような女性研究者の前向きな生き方を、是非とも理解し、可能性を信じてほしいというのがオーガナイザーの希望であった。

●プログラムと内容は以下のとおり。

- 1) 年会長挨拶

勝木元也（基生研・所長）

- 2) 分子生物学会における男女共同参画社会の実現に向けて

山本正幸（東京大・院理）

分子生物学会の男女共同参画のとりくみについて現状報告。

- 3) 男女共同参画・トリビアの泉

本橋令子・亀井綾子（理研・横浜）

我が国の女性研究者の現状を、教授職に占める女性比率や、GEM（ジェンダー・エンパワーメント・インデックス；女性の活躍度）の視点からとらえたクイズ。大変よいイントロになりました。

- 4) 出産、学業、育児、研究、別居、就職... 欲張りな私の選択と工夫

平田たつみ（国立遺伝研）

大学院生時代に出産、5回の引っ越し、子連れ赴任、独立と多忙を極めた14年間を横軸に、キャリア形成とお子さんの成長をプロット、両立の大変さとそれを乗り越えるエネルギーや工夫がリアルにわかる名講演でした。ポスドク制度への提案等も含めて、大変エネルギーがつかつ客観的に話していただきました。

- 5) 「さきがけ」で出産、子連れ研究の10年

吉田祥子（豊橋技科大・工）

さきがけ研究者のただ中に妊娠・出産し、子連れ赴任を経て研究を続けた経験をお話していただきました。「時限職が子供を産む」ことの利点・問題点と、育ててみてはじめてわかった「数々の育児に関する常識の嘘」子連れ研究ノウハウ、子育てにかかった費用の経時変化、子育てと論文数の相関等、興味深い話が満載でした。「子供と共生できる社会を!!」という締めくくりが印象的でした。

6)子育てと研究の両立の一つの選択肢としての単身赴任

篠原美紀(広島大・原医研)

「子供と主人は大阪に、私は広島にという単身赴任生活。子供か研究か?という切羽詰まった選択ではなく、両立のための一つの選択肢としてお話します。」との前置き通り、気負わない柔軟な語り口が好評でした。独立した研究者となるためのステップとしての単身赴任も家族の理解に支えられてこそ実感しました。

7)理研の男女共同参画への取り組み 育児支援を中心に

大河内真(理研・総務部長)

理研の出産、育児等に対する支援システムの現状と問題点について紹介。全職員(約2,700名)の73%が任期制研究員で、その約40%を20~30代の女性研究者が占める理研では、2003年度から裁量労同性を導入、2004年度から理研(和光)に、理研初の30名規模の保育室が設置すること。任期制研究者が育児休業をとりづらい現状を改善するために、評価制度の透明化や相談窓口の設置を考えているとの希望のもてるお話でした。

8)男性が気軽に研究と子育てを両立させるには

伊藤 啓(東京大・分生研)

まず、2003年度日本分子生物学会年会保育室の担当として、簡単な報告。ついで、父母ともに、キャリア形成と子育てで真っ最中の「父親」として、女性がキャリアと子育てを実現しやすくする環境は、実は男性にとっても同じことなのだとの日頃の実感の披露。数々の両立の工夫も合わせて報告。

9)男女共同参画 個人レベルから学会・国レベルの流れの中で

郷 通子(長浜バイオ大学)

まず国の「科学技術・学術審議会人材委員会の第二次提言」を背景に、日本の女性技術者の現状を分析、日本の学協会に女性の人材はいないという「思いこみ」をなくし、組織の多様性を保つためにも、今、ポジティブアクションが必要と述べられた。研究と子育ての両立やキャリアパス設計といった個人レベルの問題から、多様な人材の養成や学会運営に女性を積極的に登用するといった、学会レベルの取り組み、そして、政策決定の場で女性研究者が活躍するといった国レベルで対処まで、女性研究者が活躍するためには、どのような視点が必要か、事例をあげてわかりやすくまとめていただいた。

- 参加者は200名以上、立ち見ができるほどの盛況ぶりであった。特に、多数の若い男性の参加が目立っていたが、教授、助教授クラスの男性の参加も多かったのには力づけられた。
- 楽しく力づけられる話ばかりで、内容もバラエティに富んでいたと大好評であった。「分子生物学会年会の定番イベントになった!？」とも。
- 最後に郷会員から、「会の内容を本にしましょう。」との提案があった。今回の詳しい報告集を作成予定である。
- この会に参加したくても参加できなかった会員のために、ビデオ撮影をした。現在編集集中。

日本分子生物学会 第4回春季シンポジウム「分子生物学の新展開」のご案内

日本分子生物学会では、平成13年度(2001年)から「春季シンポジウム」を開催することになりました。平成16年度第4回春季シンポジウムの開催趣旨、計画および参加申込方法などをお知らせします。多数の皆様のご参加をお願いします。

趣 旨：日本分子生物学会は、年々学会の規模が大きくなり、包含する研究分野も広範囲になり、さらに各研究分野は専門化の一途をたどっています。シンポジウム、ワークショップの数も増大し、複数のものが同時に並行して開かれるため、異なる分野の話を聴く機会も少なくなっています。また会員数増加に伴い、年会は会場施設の関係で限られた大都市でしか開催できないようになり、若い研究者の参加は開催地とその周辺に偏りがちになっています。そこで、年会を開催できない地方においてこの春季シンポジウムを開催して、新しい方々の参加を期待するとともに、その地域の分子生物学研究の発展の促進に寄与することを目指しています。

なお、春季シンポジウムは様々な研究分野を総合的に考える機会をもつことを目的に開催されます。シンポジウムを一会場に限定し、講師には最近話題の優れた論文を発表された方々を中心にお願いし、最先端の研究成果をもとに議論し、科学の発展に役立てたいと考えます。さらに、本春季シンポジウムでは、大学院生を含めた若手研究者が積極的に活躍できることを目的の一つにしたいと考えています。若手研究者が発表と質問を通してシンポジウムに積極的に参加することを期待し、発表やポスター賞等を設けたいと考えています。また、特に学生会員の参加を期待し、学生会員の参加費を無料にいたします。

開催日時：2004年5月19日(水)9:30～20日(木)16:30

開催場所：【講演】奈良県新公会堂 能楽ホール(1階)

【ポスター発表】奈良県新公会堂 レセプションホール(2階)

【懇親会】5月19日(水)18:30～

奈良県新公会堂 レセプションホール(2階)

〒630-8212 奈良市春日野町101番地

Tel:(0742)27-2630

参加予定人数：250人

プログラム：講演とポスター発表

招待講演者：(50音順)

青山 卓史(京都大学・化学研究所)

岡村 均(神戸大学大学院・医学系研究科)

加藤 茂明(東京大学・分子細胞生物学研究所)

久野 高義(神戸大学大学院・医学系研究科)

佐谷 秀行(熊本大学・医学部)

島本 功(奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス研究科)

広常 真治(大阪市立大学・医学部)

藤吉 好則(京都大学大学院・理学研究科)

山中 伸弥(奈良先端科学技術大学院大学・遺伝子教育研究センター)

和田 正三(東京都立大学・理学研究科)

第4回春季シンポジウムのタイムテーブル

	9:30	12:00	13:00	14:30	18:30	20:00
5月19日(水)	招待講演		ポスター	一般講演		ポスター 懇親会
5月20日(木)	一般講演		ポスター	招待講演		
		11:30	12:30	13:30	16:30	

発表形式：

- (1) 招待講師による講演：30分（講演25分、討論5分）
- (2) 一般参加者による講演：約30人を募集（講演8分、討論4分：ポスター発表の中から講演を募集します。ただし、参加人数により講演数を変更する可能性があります。）
- (3) ポスター発表：約100演題を募集

ポスター展示は5月19日（水）12時から20日（木）15時まで。

ポスターボードの大きさは幅90cm、縦180cm。

ポスター発表申込：申込締切は4月20日（月）です。

参加申込：2004年2月20日（金）から4月30日（金）までです。

参加申込とポスター発表申込は共に日本分子生物学会第4回春季シンポジウムホームページ（<http://www.congre.co.jp/spring-nara>）より直接お申込み下さい。

参加費：会員、非会員 5,000円（懇親会費を含みます。）
学生（学部生、大学院生）無料（懇親会も参加出来ます）

宿泊・航空機の申し込み：東急観光 奈良支店

Tel : (0742) 23-2371 Fax : (0742) 24-3971

当ホームページ申込みフォームにてお願いいたします。

シンポジウムの詳細は日本分子生物学会第4回春季シンポジウムホームページ（<http://www.congre.co.jp/spring-nara>）に掲載しています。日本分子生物学会ホームページからもリンクしています。

オーガナイザー：河野憲二（奈良先端科学技術大学院大学・遺伝子教育研究センター）
田坂昌生（奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス研究科）
真木壽治（奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス研究科）
安田國雄（奈良先端科学技術大学院大学）

連絡先：奈良先端科学技術大学院大学

代表世話人：安田國雄

〒630-0192 奈良県生駒市高山町 8916-5

本シンポジウムへのお問い合わせは、下記メールアドレスへお願いいたします。

E-mail: narashunki@congre.co.jp

第 27 回 (2004 年) 日本分子生物学会年会のお知らせ (その 1)

第 27 回日本分子生物学会年会を下記の要領で開催いたします。

1. 会 期：2004 年 12 月 8 日 (水) ~ 11 日 (土)
 総 会：2004 年 12 月 9 日 (木)
2. 会 場：神戸国際展示場、神戸国際会議場、ワールド記念ホール、ポートピアホテル、
 神戸商工会議所会館
3. 年会長：柳田充弘 (京都大学大学院生命科学研究科 教授)
3. 内 容：

現在下記の要領での開催を検討しております。詳細は次回会報 (No.78) でお知らせするとともに第 27 回年会のホームページ (<http://edpex104.bcasj.or.jp/mbsj2004/>) にも公開します。

- 1) 年会ではポスターによる一般演題、ワークショップ (約 60 テーマ)、シンポジウム (12 テーマ)、バイオテクノロジーセミナー等を計画しています。
- 2) シンポジウムは年會初日より 3 日間、午前中に開催いたします。12 のシンポジウムでは分子生物学の扱う広大な領域がカバーされ、なおかつ各領域の基調が明確となるよう鋭意企画中です。なお、午後開催されるワークショップでは、午前中のシンポジウムの関連領域について、さらに詳細な議論をしたいと考えています。
- 3) ポスター発表の応募要領は次回会報 (No.78) に掲載します。応募の締切日は 8 月 31 日 (火) の予定です。一般演題の中から一部を採用し、ワークショップで発表する方式を検討しています。なお、本年も、年會の参加および演題受付等は昨年度と同様すべて Web 上で行う計画で準備を進めています。
- 4) ワークショップのテーマを公募します。ワークショップについてのご提案がある会員の方は、「テーマと概要 (400 字程度)、世話人 (2 名程度) と数名の演者の氏名と所属、予想される聴衆の数」を 2004 年 4 月 16 日 (金) 必着で、E-mail (bunshi27@bcasj.or.jp) もしくは Fax (06) 6873-2750 で年會事務局宛に送付して下さい。ただし、全体の日程等を検討したのち採否を決めさせていただきますので、採択されない場合もあることを予めご了承下さい。シンポジウムと一部のワークショップにつきましては組織委員会・プログラム委員会を中心に企画を進めており、まだ最終案ではありませんが、現在別表のようなシンポジウムのテーマが挙がっています。
- 5) 講演要旨集は印刷物として発行します。Web 上での内容の公開はしませんが、on-line でキーワードによる内容の検索を行い、検索結果に一致した演題番号を知ることができるようにする予定です。
- 6) 懇親会は行わず、代わりにミキサーを企画しています。
- 7) 年會会場に保育室を設置することを検討しています。

なお、年會開催についてのご意見、ご希望は、庶務幹事または年會事務局宛に直接ご連絡下さい。

< 第 27 回年會 庶務幹事 >

〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町

京都大学放射線生物研究センター 放射線システム生物学部門

松本 智裕

Tel : (075) 753-7552 Fax : (075) 753-7564 E-mail: mbsj2004@house.rbc.kyoto-u.ac.jp

< 第 27 回年会 事務局 >

〒 560-0082 豊中市新千里東町 1-5-3 千里朝日阪急ビル 13F

(財)日本学会事務センター大阪事務所内

Tel : (06) 6873-2730 Fax : (06) 6873-2750 E-mail: bunshi27@bcasj.or.jp

< 別表 >

企画中のシンポジウムのタイトル

- Recent topics in RNA biology
- From Cells to Organisms
- 脳機能解明へ向けての分子生物学からのアプローチ
- Frontier of structural Biology
- 免疫応答の時空制御
- タンパク質の一生
- 細胞機能と運命決定のシグナル伝達
- 染色体の分配機構
- 発がん過程のキー・プレイヤー :
- Cell to cell signal communication and plant organization
- ポストゲノム時代のバイオインフォマティクス
- DNA トランスアクションネットワーク

第 27 回日本分子生物学会年会 委員名簿

年 会 長		長谷あきら	京都大学大学院理学研究科
柳田充弘	京都大学大学院生命科学研究所	中辻憲夫	京都大学再生医科学研究所
		中重忠	京都大学大学院生命科学研究所
プログラム実行委員長		鍋島陽一	京都大学大学院医学研究科
岡田清孝	京都大学大学院理学研究科	成宮 周	京都大学大学院医学研究科
		西岡孝明	京都大学大学院農学研究科
プログラム幹事		西田栄介	京都大学大学院生命科学研究所
石川冬木	京都大学大学院生命科学研究所	西村いくこ	京都大学大学院理学研究科
		根岸 学	京都大学大学院生命科学研究所
幹 事		野田 亮	京都大学大学院医学研究科
佐藤文彦	京都大学大学院生命科学研究所	平野丈夫	京都大学大学院理学研究科
武田俊一	京都大学大学院医学研究科	藤吉好則	京都大学大学院理学研究科
米原 伸	京都大学大学院生命科学研究所	本麻 佑	京都大学大学院医学研究科
		三木邦夫	京都大学大学院理学研究科
幹 事 (庶務)		湊 長博	京都大学大学院生命科学研究所
松本智裕	京都大学放射線生物研究センター	宮田 隆	京都大学大学院理学研究科
		森川耿右	生物分子工学研究所
組織委員		矢崎一史	京都大学木質科学研究所
泉井 桂	京都大学大学院生命科学研究所	淀井淳司	京都大学ウイルス研究所
伊藤維昭	京都大学ウイルス研究所		
伊藤信行	京都大学大学院薬学研究科	プログラム委員 (顧問)	
稲葉カヨ	京都大学大学院生命科学研究所	中西重忠	京都大学大学院生命科学研究所
井上 丹	京都大学大学院生命科学研究所	鍋島陽一	京都大学大学院医学研究科
植田和光	京都大学大学院農学研究科		
植田充美	京都大学大学院農学研究科	プログラム委員	
上村 匡	京都大学ウイルス研究所	稲葉カヨ	京都大学大学院生命科学研究所
大野陸人	京都大学ウイルス研究所	井上 丹	京都大学大学院生命科学研究所
岡 穆宏	京都大学化学研究所	植田充美	京都大学大学院農学研究科
奥野哲郎	京都大学大学院農学研究科	上村 匡	京都大学ウイルス研究所
垣塚 彰	京都大学大学院生命科学研究所	大野陸人	京都大学ウイルス研究所
影山龍一郎	京都大学ウイルス研究所	加藤和人	京都大学人文科学研究所
加藤和人	京都大学人文科学研究所	清水 章	京都大学医学部附属病院
金久 實	京都大学化学研究所		探索医療センター
川崎敏祐	京都大学大学院薬学研究科	眞貝洋一	京都大学ウイルス研究所
北 徹	京都大学大学院医学研究科	滝澤温彦	大阪大学大学院理学研究科
小堤保則	京都大学大学院生命科学研究所	竹市雅俊	理化学研究所
小松賢志	京都大学放射線生物研究センター		発生再生科学総合研究センター
佐藤矩行	京都大学大学院理学研究科	藤 博幸	京都大学化学研究所
七田芳則	京都大学大学院理学研究科	永田和宏	京都大学再生医科学研究所
清水 章	京都大学医学部附属病院	西田栄介	京都大学大学院生命科学研究所
	探索医療センター	平岡 泰	通信総合研究所
下遠野邦忠	京都大学ウイルス研究所		関西先端研究センター
白川太郎	京都大学大学院医学研究科	平野丈夫	京都大学大学院理学研究科
瀬原淳子	京都大学再生医科学研究所	藤吉義則	京都大学大学院理学研究科
竹市雅俊	理化学研究所	湊 長博	京都大学大学院生命科学研究所
	発生再生科学総合研究センター	森 和俊	京都大学大学院理学研究科
武藤 誠	京都大学大学院医学研究科	森川耿右	生物分子工学研究所
竹安邦夫	京都大学大学院生命科学研究所		
月田承一郎	京都大学大学院医学研究科	特別委員	
永田和宏	京都大学再生医科学研究所	磯野克己	製品評価技術研究機構

学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、本号に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会選考委員会または賞推薦委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合せ、申請書類を各自お取寄せ下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
- 2) 研究助成・選考委員用および学会用控に、上記申請書類のコピー計6部（論文は不要）
（賞推薦の場合はコピー計7部をご提出下さい。）
- 3) 申込受付確認のための返信封筒または葉書（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

2. 提出先

賞推薦についての送付先

日本分子生物学会 賞推薦委員長 岡田清孝

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科植物学

Fax:(075)753-4257

研究助成についての送付先

日本分子生物学会 研究助成・選考委員長 辻本賀英

〒565-0871 吹田市山田丘2-2 大阪大学大学院医学系研究科B8 遺伝子学

Fax:(06)6879-3369

3. 提出期限

財団等の締切の1カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。

研究助成一覧

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
第35回三菱財団 自然科学研究助成	(財)三菱財団 ☎(03)3214-5754 〒100-0005 千代田区丸の内2-5-2	総額3億円, 40件程度	2004年 2月4日	1件当り2,000万円 まで	自然科学の基礎となる独 創的、かつ先駆的研究と ともに、国際的發展に先 導的役割を担う萌芽とも なる研究(原則として個 人研究)。
新化学発展協会 2004年度研究奨励 金	(社)新化学発展協会 ☎(03)5297-8820 〒101-0041 千代田区神田須田町1-12	7課題, 各課題1件	2004年 1月31日	1件 100万円	新化学の発展に資する若 手研究者(39歳以下)の 研究に対して、研究奨励 金を交付。 研究課題有り。
山田科学振興財団 2004年度研究援助	(財)山田科学振興財団 ☎(06)6758-3745 〒544-8666 大阪市生野区巽西1-8-1	10件程度 (2件)	2004年 3月31日	1件当たり100~ 500万円, 総額4,000万円	自然科学の基礎的研究に 対しての研究費援助。 [推薦書の請求は 事務センター・福田 (TEL03-5814-5801まで)]
アマシャムバイオ サイエンスアンド サイエンス賞 (若手研究者支援 奨学金)	アマシャムバイオサイ エンス(株) ビジネスインテリジェ ンス室 ☎(03)5331-9382 〒169-0073 新宿区百人町3-25-1 サンケイビルディング (応募先) Young Scientist Prize Selection Committee, SCIENCE Room 1053, 1200 New York Avenue, NW Washington, DC 20005, USA	若干名	2004年* 7月15日	最優秀賞金 US\$25,000 その他の受賞者 US\$5,000	1995年よりSCIENCE誌 との協賛で、学位取得直 後の優秀な若手研究者を 支援するためにPharma cia Biotech & SCIENCE Prize for Scientists in Molecular Biologyを設 置。 2004年申請は、2003年1 月~12月に学位を取得し た者が対象。
国際生物学賞	国際生物学賞委員会 ☎(03)6238-1722 〒102-8471 千代田区一番町6 日本学術振興会内	1件 (1件)	2004年* 5月14日	賞状, 賞牌, 1,000万円	生物学の研究において世 界的に優れた業績を挙 げ、世界の学術進歩に大 きな貢献をした研究者。
第22回研究助成 第21回国内および 海外留学補助金 第21回持田記念学 術賞	(財)持田記念医学薬学振興 財団 ☎(03)3358-7211 〒160-8515 新宿区四谷1-7	総額 4,500万円 総額 1,000万円 2件以内 (1件)	2004年 6月30日 2004年 6月30日 2004年 7月31日	1件 100万円 1件 50万円 1件 300万円	生命科学・薬物科学・情 報科学と医療応用の研究 の分野における研究で、 顕著な功績があり、かつ 新進気鋭の研究者。
日産学術研究助成 第12回日産科学賞	(財)日産科学振興財団 ☎(03)3543-5597 〒104-0061 中央区銀座6-16-9	①総合研究 4~5件程度 ②若手研究者 助成 6件程度 平成14年度か ら日産財団へ の直接応募方 式に変更	2004年* 7月30日 2004年* 8月31日	①700万円まで ②150万円×3年 賞状, メダル, 500万円	自然科学分野で、それぞ れの研究の成果が学術の 進歩・発展に貢献するこ ろが大きいと思われる もの、新しい研究分野の 開拓に貢献する研究者お よび研究グループ。 自然科学分野で、学術文 化の向上・発展に大きな 貢献をした新進気鋭の研 究者。
笹川科学研究助成	(財)日本科学協会 ☎(03)6229-5365 〒107-0052 港区赤坂1-2-2 日本財団ビル	約390件	募集期間 2004年* 9月1日 } 10月15日	1件当り100万円ま で	人文科学, 社会科学およ び自然科学(医学を除 く), または境界領域の 研究計画に関するもの。 4月1日現在, 35歳以 下の若手研究者へ助成。
上 原 賞	(財)上原記念生命科学財団 ☎(03)3985-3500 〒171-0033 豊島区高田3-26-3	2件以内 (1件)	2004年* 9月10日	金牌 2,000万円	生命科学の栄養学, 薬 学, 基礎および臨床医 学, 社会医学で顕著な業 績を挙げ、引き続き活躍 中の研究者。
井上 学 術 賞	(財)井上科学振興財団 ☎(03)3477-2738 〒150-0036 渋谷区南平台町15-15-601	5件以内 (1件)	2004年* 9月17日	1件賞状, メダル, 200万円	自然科学の基礎的研究で 特に顕著な業績を挙げた 者(ただし締切日現在満 50歳未満)。

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
木原記念財団学術賞	(財)木原記念横浜生命科学振興財団 ☎(045)825-3487 〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町641-12	1件 (1件)	2004年* 9月30日	賞状, 記念牌, 200万円	最近において生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている国内の研究者で, 原則として締切日現在50歳以下の者。
東レ科学技術賞	(財)東レ科学振興会 ☎(047)350-6103 〒279-8555 浦安市美浜1-8-1 東レビル	2件前後 (2件)	2004年* 10月8日	1件 賞状, 金メダル, 500万円	学術上の業績顕著な者, 学術上重要な発見をした者, 重要な発明により効果が大きい者, 技術上の重要問題を解決し貢献が大きい者。 基礎的な研究に従事し, 今後の研究の成果が科学技術の進歩・発展に貢献するところが大きいと考えられる, 独創的, 萌芽的な研究を活発に行っている若手研究者。
東レ科学技術研究助成		総額 1億3,000万円 10件程度 (2件)	2004年* 10月8日	特に定めず最大 3,000万円まで	
第36回科学振興賞	(財)内藤記念科学振興財団 ☎(03)3813-3005 〒113-0033 文京区本郷3-42-6 NKDビル8階	1件 (1件)	2004年* 10月1日	金メダル, 500万円	人類の健康の増進に寄与し得る自然科学の基礎的研究, 自然科学の進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者。 同上のテーマに取り組み, 国際的に高い評価を得ている外国の研究者を招聘する受入れ責任者に贈呈。
第35回海外学者招聘助成金		前後期各総額 500万円 (1件)	2004年* 6月2日 10月1日	1件 20~60万円 まで(エリアによる)	
ブレインサイエンス財団研究助成	(財)ブレインサイエンス振興財団 ☎(03)3273-2565 〒104-0028 中央区八重洲2-6-20	8~10件 (1件)	2004年* 11月25日	1件 100万円	ブレインサイエンス研究分野(脳神経に関する自然科学的研究をすべて含む研究領域)において独創的で国際的評価に値する研究者。なるべく若い者, 単独または共同研究も可。
塚原仲晃記念賞		1件 (1件)		1件 100万円	ブレインサイエンスの研究の促進を図るため, 国際学会, シンポジウム等への参加, あるいは研究者の派遣を助成。
海外派遣研究助成		若干件 (1件)	2005年* 1月14日	1件 30万円まで	同分野において独創的テーマに意欲的に取り組んでいる外国人研究者の招聘を助成。
海外研究者招聘助成		若干件 (1件)		1件 30万円まで	
研究助成	(財)長瀬科学技術振興財団 ☎(06)6535-2117 〒550-8668 大阪市西区新町1-1-17	10数件	2004年* 11月30日	1件 250万円以内	生化学および有機化学等の分野において研究活動を行う研究者または研究機関。
2005年度研究集会助成	(財)ノバルティス科学振興財団 ☎(03)5414-5761 〒106-0032 港区六本木7-8-4 銀嶺ビル5F	約10件 (1件)	2005年* 1月31日	1件 50万円	わが国で開催される生物・生命科学およびそれに関連する化学の領域における研究集会に対し, 運営経費の一部を助成する。研究集会はかなりの数の国外からの参加者を含む国際性豊かな集会でなければならない。ただし, 参加者が1,000名を越すような大規模な研究集会および2国間の研究集会は原則として助成の対象としない。

()内は, 応募に当たり学協会等からの推薦が必要な場合, 本学会の推進枠を示しています。

*は, 本年度の案内を受取っておらず, 昨年の締切日を参考に示してあります。

各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

第29回国際動物遺伝学会議 (ISAG)

開催場所：明治大学駿河台新校舎（東京・御茶ノ水）

開催期日：2004年9月11日（土）～16日（木）

メインテーマ：ゲノム研究の発展と家畜生産

家畜、実験動物、魚類、野生動物、等のゲノム研究、QTL解析、遺伝的多様性、等に関する最先端の研究成果を、プレナリーセッション、ワークショップ、ポスター発表などで紹介します。プレナリーセッションは次の4分野を予定しています。

1. Genetic Diversity of Livestock and its Utilization for Breeding
D. Bradley (Ireland), L. Ollivier (France), K. Tanaka and Y. Kurosawa (Japan)
2. Ultimate Chromosome Maps
L.B. Schook (USA), D.V. Burt (UK), Y. Hayashizaki (Japan)
3. Bright and Dark Sides of QTL Analysis
M. Georges (Belgium), H. Inoko (Japan)
4. Seeds for Future Genome Analysis
M.H. de Angelis (Germany)

登録：講演要旨および早期登録の締切りは2004年5月31日（月）

登録料金：会員（4万円）、非会員（5万円）、学生会員（2万円）、一日参加（2万円）

連絡先：サード・アナウンスメントの請求あるいは会議に関するご質問は事務局まで

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

神戸大学農学部 辻 荘一

Tel: (078) 803-5801 Fax: (078) 803-5801

E-mail: tsuji@ans.kobe-u.ac.jp

URL: <http://www2.kobe-u.ac.jp/isag2004/>